

市P連だより

あきたっ子

平成22年 2月26日

No.109



発行 秋田市PTA連合会 市P連シンボルマーク
編集 総務広報部
事務局 秋田市山王二丁目1-53山王21ビル内
☎866-2248 FAX 866-2252
E-mail:akitapta@cna.ne.jp
http://www.akita-pta.jp/

子どもたちが新世紀の担い手として成長してくれることを願い、「あきたっ子」としました。



トレーンで練習
「みんな続いているかな」



開講式「冬のスポーツ、スキーを楽しみましょう」



金足西小学校
スキー教室
オーパススキー場
2月3日開催

初歩的な練習
「プルークをしっかりと」

“寒かったけれど、みんなで元気にスキーを楽しみました。”



秋田市PTA連合会
会長 渡辺 正宏

地域につながるPTAの輪

毎年この時期になると話題になるのが、役員決めのことです。役員選出に難渋するのはこの小中学校PTAでも同じことでしょうが、役員のなり手がなく、くじ引きやじゃんけんで決めるところもあるようです。

今、学校では子どもの教育には地域の力が不可欠だと言っております。我々はPTA活動を通じ地域社会活動を学び、その活動の中で地域人として成長していきます。そして卒業後は、今度は地域人として地域教育の向上に努めていくという循環が形成されるのではないかと思っております。従って、入り口であるPTA活動が希薄になるといことは、地域の教育力も弱くなってしまいますし、地域の連帯感も薄れることにつながるのではないのでしょうか。少子化の現代、地域の宝である子どもたちをみんなで育てるためにも、積極的な参加をお願いいたします。

最後になりますが、一年間の会員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

地域参加で『地燦地笑』

秋田市立勝平小学校PTA会長 加藤 寿一

本校創立四十周年を迎えた今年度、本校PTAが『文部科学大臣表彰』の栄に浴することができましたことは、誠に名誉なことであり、会員はもちろん地域の皆様とともに喜びを噛み締めているところです。

さて、本校のある勝平地区は、原野だったところが戦後開発され、住宅地として急速に発展してまいりました。そのため、地域の方々は、「おれがだが作った地域」という愛着心が強く学校に対して本当に協力的で、事あるごとに学校に来ていただき指導助言をいた

だいております。ですから会員相互はもちろん、地域ともガッツリとタッグを組んだ活動ができるわけです。全校児童が八〇〇人を超えるマンモス校でありながら、PTAが大変スムーズに活動できるのは、地域の協力なくしては到底できません。防犯パトロール、学校行事、祭りなど地域と学校が同じ目線で共通した認識を持ち、それぞれの役割を果たしているのです。こうした学校をひとつの『広場』とした活動が年代を越え、垣根のない地域のコミュニケーションづくりになり大いに役立っています。

日本PTA会長表彰を受けて

秋田市立高清水小学校PTA会長 鎌田 法子

「できる人ができる時にできることを…」を合言葉に、私たち高清水小学校はPTA活動に取り組んできました。一人の力では成し得ないこともPTA会員の皆さんと協力し、様々な活動に取り組んだ結果、団体として認められたことは、何よりうれしく思っております。またこの名誉ある表彰式で高清水小学校の代表として出席できたことを、心より光栄に思っております。

できるようにと、学校と家庭が連携し、「高清水小レインボープラン」のもと学校生活を送っています。まさにPTA活動も、同じ精神で協力し合わなければいけないのだと感じております。

また、地域の皆様の協力をいただいて「丘の子みまもり隊」に参加し、子どもたちの安全につとめておりますが、さらに強い絆で、子どもたちの成長を見守りたいと考えております。

受賞にあたり、本校の長いPTA活動を認めていただけたことを嬉しく思い、子どもさんが卒業さ

す。PTAと地域が一体となった活動の大切さはいまさら言うまでもありませんが、やってみるとなかなか難しいもの。今回の受賞を励みに地域全体がさらに燦々と輝き、みんながここに笑顔になれる、いわば『地燦地笑』を合言葉に活動しよう

と、会員一同誓いを新たにしています。

れてもなお地域で、子どもたちのために、惜しみない協力をしてくださる皆様、そして日々、「できる人ができる時にできることを…」続けてくださっているPTA会員の皆様に心より感謝致しております。

今後とも子どもたちのために、会員それぞれが無理なく協力をし合っ、活動に活き活きと取り組んでいきたいと思いたいます。



受賞を喜ぶ高清水小学校PTA役員



「文部科学大臣表彰」授賞式で

スナッフ あきたっ子



下新城小学校 1月26日(火)
「金足東小学校との交流会」
「ドキドキワクワクの自己紹介。新しいお友だちが増えてみんなうれしそう。」



土崎小学校 1月24日(日)
「秋田県綱引選手権大会」
「4年生男子有志13人が力を合わせて初めての競技綱引に挑戦しました。勝利には届きませんでしたが仲間との協力、思いやりを味わえた一日でした。」



将軍野中学校 12月28日(月)
JOCジュニアオリンピックカップ
第23回全国都道府県対抗中学バレーボール大会 表彰式
写真中央：土井さくら(将軍野中学校3年)
受賞内容：JOCカップ(ジュニアオリンピックカップ)、JVAカップ(日本バレーボール協会カップ)
オリンピック有望選手・大阪府知事賞

私達の地域と活動



金足東小学校

『閉校の思い』

金足東小学校PTA会長 三浦 敏光

明治八年に吉田学校として設立して以来、地域に最も愛されたこの金足東小学校の長い歴史の幕が今、閉じることになりました。百三十四年の歴史にピリオドを打つという事は本当に悲しいものであります。『この学校にしか出来ないことがたくさんあったなあ』と思います。『この学校にしか出来ないことがたくさんあつたなあ』と思いがたくさん込み上げてきます。

少人数ではありませんが教育は大変恵まれており、特に農業体験のアグリ活動や、人との触れ合いを大切にフレンドピア学習、地域素材をもとに問題解決能力の育成を目指したイーストピア学習など、私たちPTA会員も目にしたことのないものまで頑張りました。

他にもクラブ活動では地域の人たちがふるさと先生として、文化の特性を五感で感じ取れるようにと無形民俗文化財の「黒川番学」を丁寧に教えていただき、子どもたちみんなが一生懸命演舞した姿は、このあとも忘れることはできないでしょう。

閉校するにあたり、いろいろなことを思い出します。思い出はこの学校があつたからこそであり、私たちPTA会員も子どもたちと同様にこの学校に成長させてもらいました。その思い出を胸に、金足東小学校の名は無くなりませんが、私たちの心の中、金足東小学校は永久に残ることでしょう。そして子どもたちがより良い環境で学ぶことを心から願ひ、大きく羽ばたいてもらいたいと思います。高台に立つ赤い三角屋根の金足東小学校よ、長い間私たちを育ててくれてありがとう。



田植えの様子 (アグリ活動)



黒川番学 (市民俗芸能合同発表会の様子)



赤平小学校

広がれ あつたか赤平

赤平小学校PTA会長 田口 康徳

明治八年に創立、百三十四年の伝統を誇る赤平小学校が、平成二十二年三月末をもって、その長い歴史に幕を閉じることになりました。本校のほとんどのPTA会員にとつて母校であるこの学校の閉校は、誰の心にもさみしさを感ぜさせました。

最後の年となつた今年度は、PTAと地域が一体となり子どもたちと一緒にたくさんの思い出作りをしました。まずは、学校園に咲かせたあつたかひまわり千本。みんなで力を合わせて作業を進めたおかげで、夏には明るく輝く花が咲き、秋にはたくさんの種を取ることができました。そして、赤平のあつたかさ子どもたちの元気をたくさんの人たちに伝えたいと、国際

教養大学の留学生のみなさんや交流を進めている他校の友だちの他、秋田駅のぼぼろーどもも出かけ、たくさんの方々にひまわりの種をお分けしました。また、夏には全校親子学校宿泊体験を実施。宿泊用の布団や夕食の材料を持ち込んで学校へ集合。地域の方からスイカやジャガイモなどの差し入れもありました。

お父さんたちの企画による花火大会や肝試しは子どもたちにも大好評でしたし、お母さんたちと子どもたちが一緒に作ったカレーライスは忘れられない思い出の味となりました。

四月から、子どもたちは河辺小学校へ通学します。私たちPTA会員も河小会員へ仲間入りとなります。子どもたちが配ったひまわりの種が、夏にはあちこちで花を咲かせるように、私たちが赤平小のあつたかさを次のPTA活動の中に生かしていけたらと思っています。



ひまわりの種植え活動



全校宿泊体験 カレーライス作り

編集にあたって

「あきたっ子」の編集に参加させていただき「あきたっ子」は多数の皆様のご協力により発行されていることを再確認いたしました。この一年間ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。 太平中学校 鈴木 正人

こちらから家庭教育相談 『ぐりーん・えこー』です

ここは、秋田市子ども未来センター（アルヴェ5階）の一角にある『ぐりーん・えこー』です。

子育てをする上での悩みや心配ごとと一緒に考えていく相談機関として、保護者の方々から、たくさんの方々の相談を受けています。

最近寄せられた、小中学生に関する相談を紹介してみよう。



Q1 小学校低学年です。経済的事情から、私（母親）もパートで働き始めました。それから数週間。この頃、ぐずぐずと泣いたり、朝、登校を渋ることが増えてしまい、困っています。

A1 それはご心配ですね。今まで家にいたお母さんが外で働き始めたということは、子どもにとって『大事件』です。おそらく、今までよりも我慢したり頑張ったりすることが増えたことでしょうか。このような新しい経験は、子どもに力をつけてくれま

す。しかし、この時忘れてはならないことがあります。

実は、子どもは、我慢したり頑張ったりする時に何度か、心のエネルギーをなくすることがあるということです。それは、いろいろな形で表れます。

夜尿が始まる・食欲がなくなる・泣きやすくなる・乱暴になる・チックが起る・動作がのろくなる・今までできていたことができなくなる・など、様々です。あなたのお子さんも、「心のエネルギーがなくなってきたよ。助けて！」とSOSを発していたのですね。

このようなとき、叱咤激励よりも、肌のぬくもりの方が子どもの心を元気にしてくれます。

一緒にお風呂に入る・隣で寝る・朝起こす時に頭をなでる・登校前に握手をする・手をつないで散歩する・など、できそうなことを見つけて、毎日続けてみましょう。

肌のぬくもりは、子どもの心を癒し、心にエネルギーを貯めてくれます。すると、子どもの自己回復力・自己解決力が高まります。心が丈夫になるのです。

それにより、気になる行動や症状は、少なくなり、やがて、また、以前のような姿に戻ることでしょう。もしかしたら、一回り大きくなったお子さんを発見できるかもしれませんよ。



A2 中学生です。朝の登校前、かなりの時間をかけて髪型を整えます。そして休日には、ファッション雑誌をまねた派手な服装をして友達と出かけます。今時の中学生は、こういうものでしょうか。

Q2 ご心配なことでしょうか。子どもさんは思春期に入って身体にも変化が現れてきたとともに、自分が他人からどのように見られるかというのを、とても気にするようになってきたのですね。

これは、中学生の健康的で自然な姿です。髪型や服装にかける時間は、親から見ると無駄に思えても、子どもに

とっては、一日の慌ただしいスケジュールの中で一番落ち着ける時間・一週間の疲れを癒す楽しみの時間かもしれません。

また、この時期は、容姿へのコンプレックスを持ちやすくなります。それを補ったり、友達との交流を深めるのに役立つているかもしれません。親の支配や干渉を嫌う年頃ですので、校則違反や問題行動が心配されるほどでなかつたら、見守ってみましょう。



A3 小学生と中学生の子がいます。二人とも、驚くような言葉を遣います。友だちや先生をアイツ呼ばわりする他、「ウザイ・シネ・キシヨイ・キモイ・アケオメ・コトヨロ・KY・・・」などです。注意すると、「みんな遣っている。普通だ。」と言います。これでよいものではないか。

Q3 さぞや驚かれたことでしょうか。メディアの影響もあり、子どもたちは、親の世代には理解し難い流行語に囲まれています。聞いていて、不

快感を持つ人も多いかもしれませんがね。

しかし、話すのを聞いてみると、子どもは、話す相手や場面によって、ちゃんと遣い分けていることがわかりました。友だち同士・兄弟姉妹の間ではわざと遣うものの、先生や、他の大人に対しては、わりときちんとした言葉遣いができています。

あまり好ましくない場合は、「今の、どういう意味？」とサラリと尋ねて、話題にしてみるのでもいいかもしれません。その際、「人を傷つける言葉は遣わないこと」を親子の約束にしたいものですね。

家庭教育相談（ぐりーん・えこー）

電話相談・面接相談 9:00~18:00

018(887)5337（日曜休み）

＜相談内容＞しつけ、不登校、友だち関係、いじめ、親子関係、勉強、進路、習い事、情緒不安定、問題行動、発達の遅れ、etc.

秋田市子ども未来センター内
（アルヴェ5階）